

尾上神社の銅鐘

おのえじんじやのどうしょう



文化財愛護シンボルマーク

名称	尾上神社の銅鐘	所在地	加古川市尾上町長田 518 番地
別称	尾上の鐘、朝鮮鐘、高麗鐘	所有者	尾上神社
数量	1 口	指定	重要文化財
寸法	高さ 126.7cm、口径 73.5cm	指定分類	工芸品
材質・技法	青銅 鑄造	指定名称	銅鐘
時代	平安時代後期 11 世紀 (朝鮮 高麗時代)	指定年月日	明治 34 (1901) 年 8 月 2 日



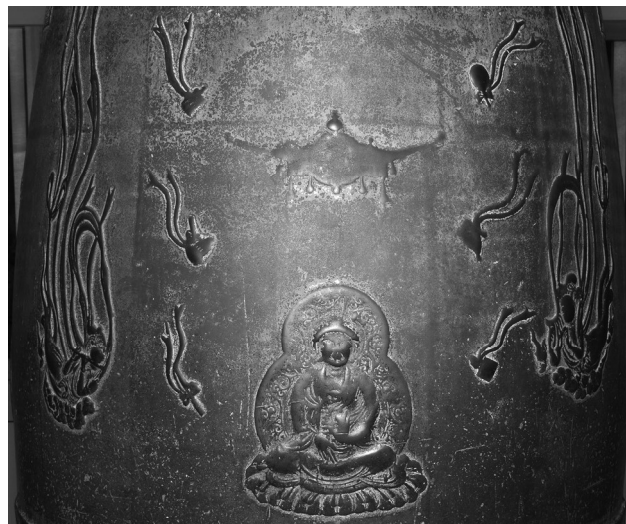
尾上神社の銅鐘

この銅鐘は、多くの人々に海の神様として信仰されている住吉大明神を祭神とする尾上神社にある梵鐘です。『千載和歌集』や謡曲「高砂」などにおいて語られているほか、江戸時代の地誌である『播磨鑑』や『播州名所巡覧圖絵』などにも記されており、古来「尾上の松」とともに多くの人々に礼賛されてきました。

中国鐘・朝鮮鐘・和鐘（日本鐘）に大別される梵鐘のうち、尾上神社の銅鐘は朝鮮鐘に相当します。兵庫県内の朝鮮鐘は、本鐘のほかに鶴林寺の1口があるのみです。

この銅鐘の特徴として、単頭の竜頭で、その後ろに円筒形の甬（旗挿）を立てていること、上帯・下帯を唐草文などの各種文様で飾っていること、上帯の下に唐草文の装飾帯による乳郭を設けている¹こと、鐘身に仏像や天人像、楽器などの装飾を鑄出していること、撞座を二方に配することなどが挙げられ、全体的に荘厳美しい鐘といえます。

制作年代については、この銅鐘の装飾の大部分が、高麗の顕宗2（1011）年に鑄造されたと推定されている島根県



仏像や天人像など

天倫寺の銅鐘の装飾とたいへんよく似ていることから、天倫寺の銅鐘とほぼ同じ11世紀前半と考えられています。

『播磨鑑』の記載や地元の伝承によると、この鐘は、応仁2（1468）年に海賊によって盗まれ、高知県の足摺岬付近で海中に投げ棄てられたそうです。その後、地元の漁師たちによって引き上げられ、高野山へ奉納されたものの、鐘を撞くと「オノエへ、イノー（帰ろう）」と聞こえるので、尾上神社に戻されたといわれています。

尾上神社の銅鐘は、鶴林寺の銅鐘とともに希少な朝鮮鐘であり、文化財としての価値が高だけでなく、古くから多くの人々に親しまれてきたもので、地域の歴史を語るうえでたいへん重要な文化財といえるでしょう。

（文・写真／平尾）

1) 乳郭には3段3列の乳の存在が窺えますが、現在は乳座を残すのみで乳はすべて失われています。

●参考文献

- 坪井良平 1974『朝鮮鐘』角川書店
- 郷土のおはなしとうた第3集編集委員会 1976『郷土のおはなしとうた』第3集 加古川市教育委員会
- 加古川市史編さん専門委員 1985『加古川市史』第7巻 加古川市

●キーワード

尾上神社 梵鐘 『千載和歌集』 「高砂」 『播磨鑑』 『播州名所巡覧圖絵』 朝鮮鐘 鶴林寺 天倫寺 高麗時代

- 所在地 兵庫県加古川市尾上町長田518番地
- 交通 JR神戸線「加古川」駅発かこバス鳩里・尾上ルート「尾上市民センター前」バス停を降りてすぐお車の場合、加古川バイパス「加古川ランプ」から南へ約5km



上帯、乳郭



下帯

